

## 令和2年度 三井病院 病院指標

1. 年齢階級別退院患者数
2. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）
3. 初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数
4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等
5. 脳梗塞の患者数等
6. 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）
7. その他（D I C、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

### 年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	10	32	49	72	160	214	296	577	645	210

2019年4月1日から2020年3月31日までに退院した患者様について、人数を10歳刻みの年齢階級別に集計しています。全体退院患者数は2265名で、そのうち60歳以上が1728名、59歳以下が537名となっております。高齢化社会に伴い、前年度と同じく60歳以上の患者様が占める割合が7割を超えており、症状が比較的重症になりやすい高齢者の入院が多い傾向にあります。

### 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

#### ■ 乳腺腫瘍科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
090010XX010XXX	乳房の悪性腫瘍 乳房悪性腫瘍手術 乳房切除術等 処置1なし	75	13.12	9.984	0	58.8
090010XX02XXXX	乳房の悪性腫瘍 乳房悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わない)	14	7.786	6.317	7.143	61.214
090020XX97XXXX	乳房の良性腫瘍 手術あり	10	3.8	3.964	0	32.9
090010XX04XXXX	乳房の悪性腫瘍 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術等	-	10.5	7.13	0	49
090010XX99X4XX	乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置2なし等	-	3	3.305	0	59.6

患者数が10未満の数値には「-」としています。  
 乳腺疾患の代表である乳房の悪性腫瘍の患者さまを中心に、乳腺症や良性腫瘍などを含めた乳腺疾患全般の診断や治療を行っております。形成外科と連携し乳房再建術もおこなっております。  
 診断から手術前後の補助療法及び治療後の経過観察まで一貫して行っており、集学的治療についても納得がいくまで説明をさせていただいております。乳房腫瘍手術の入院ではクリニカルパスを用い、患者さまの不安軽減および短い期間で安全に安心して退院できるように努めております。遺伝子検査や遺伝子カウンセリングも行っており、患者さまにあったより良い対処法を選択する手助けをしております。  
 甲状腺の良性・悪性疾患に対しても、診断や治療を積極的に行っております。

#### ■ 消化器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060160X001XXXX	鼠径ヘルニア 15歳以上 鼠径ヘルニア手術等	32	5.219	4.691	0	63.094
060210XX99000X	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	30	10.467	9.244	3.333	72.367
060150XX99XX0X	虫垂炎 手術なし 副傷病なし	24	11.125	9.244	0	42.875
060100XX01XXXX	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む) 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術等	23	2	2.787	0	66.043
060130XX9900XX	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患) 手術なし 処置1なし 処置2なし	17	5.941	8.695	0	52.941

上下消化管、肝臓、胆膵の消化管疾患全般に幅広く対応しています。

鼠径ヘルニア・胆のう結石・虫垂炎・結腸癌などの腹腔鏡下切除術症例も多く施行。

腹腔鏡下手術を積極的に採用し、手術に対する患者さまの負担をできるだけ小さくするように努めています。

患者数の多い疾患はバスに沿って動いており在院日数は全国と比較して短くなっております。

初期治療から術後フォローアップまでトータル的に治療を行っており、病状により患者さまの意思を尊重し手術ではなく保存治療も行っております。

※患者さまは中高年層と幅が広く、症状発生時の緊急手術にも対応しております

#### ■整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
160800XX01XXXX	股関節・大腿近位の骨折	89	25.393	33.556	80.899	82.427
070230XX01XXXX	膝関節症（変形性を含む。）	37	24.676	27.994	5.405	75.622
07040XXX01XXXX	股関節骨頭壊死、股関節症 （変形性を含む。）	34	24.147	25.975	11.765	66.588
160690XX99XXXX	胸椎、腰椎以下骨折損傷 （胸・腰椎損傷を含む。）	25	19.24	27.496	76	82.8
160760XX97XX0X	前腕の骨折	19	4.158	6.389	0	66.632

入院患者さまのうち手術治療を必要とする方がほとんどであり、お子さまから高齢者まで全年代の方が対象となっております。

地域の高齢化に伴い、変形性股関節症・膝関節症や、転倒に伴う骨折にて入院される患者さまが増えています。

上記の患者さまに対し、股関節・膝関節の人工関節置換術・様々な部位に骨折観血的整復術・経皮的椎体形成術などを行っております。

術後早期よりリハビリテーションを開始し、早期退院、早期社会復帰が可能となるよう治療を進めております。

また、地域連携クリニカルパスを使用し、切れ目のない医療とするべく、回復期リハビリ病院や療養型病院・施設等と連携を図り治療にあたっております。

#### ■内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
110310XX99XXXX	腎臓又は尿路の感染症	67	16.343	17.598	10.448	79.627
060100XX01XXXX	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	58	2.052	3.081	1.724	65.224
040081XX99X0XX	誤嚥性肺炎	57	26.789	25.92	21053	85.088
030250XX991XXX	睡眠時無呼吸	39	2	3.618	0	55.154
050130XX9900XX	心不全	33	24.758	22.5	21.212	86.586

当院の内科は総合診療科(消化器、呼吸器、代謝内分泌、循環器など)で幅広く診療を行っており、必要に応じ専門科にてフォローをしております。

内視鏡的ポリープ切除術が最も多く、内視鏡的治療に力を入れております。

睡眠時無呼吸症候群の検査入院にも積極的に行っております。

70歳以上の患者さまが多く、様々な肺炎や尿路感染症などに対し抗生物質による薬物療法を行っております。

内科的治療にリハビリテーションを積極的に取り入れ、早期退院できるよう努めています

#### ■泌尿器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
110070XX03X0XX	膀胱腫瘍	67	16.343	17.598	10.448	79.627
110080XX991XXX	前立腺の悪性腫瘍	58	2.052	3.081	1.724	65.224
11022XXX01XXXX	男性生殖器疾患	57	26.789	25.92	21053	85.088
11012XXX020X0X	上部尿路疾患	39	2	3.618	0	55.154
11013XXX97XXXX	下部尿路疾患	33	24.758	22.5	21.212	86.586

患者数が10未満の数値には「-」としています。

前立腺がんは無症候であることが多くPSAという血液検査で発見されることが多いです。

前立腺がん検査は、1泊2日でバスに沿いながら針生検を行っています。早期発見に努めております

他にも膀胱悪性腫瘍や尿路結石症（腎結石・膀胱結石など）、包茎の治療を多く行っております。

泌尿器の悪性腫瘍(前立腺がん、膀胱がん、腎盂がん等)に対しては、手術及びホルモン療法、化学療法を行っております。

#### ■腫瘍内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
090010XX99X4XX	乳房の悪性腫瘍	11	3	3	0	58
060050XX99000X	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続 発性を含む。）	-	14.75	12.929	12.5	67.375
090010XX99X8XX	乳房の悪性腫瘍	-	2.8	2.8	0	62.6
040040XX9900XX	肺の悪性腫瘍	-	21.25	14.818	0	77.5
040050XX99X0XX	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	-	17.25	16.8	0	72

患者数が10未満の数値には「-」としています。

腫瘍内科は、様々な悪性腫瘍に対し薬物療法を行う「抗がん剤治療」の専門診療科です。

化学療法は外来通院が中心ですが、初回の化学療法や患者さまの病態に合わせて入院加療も行います。

抗がん剤治療には様々な副作用が伴いますが、適切な支持療法を行い、日常生活が支障なく送れるよう心がけています。

進行がんで肝転移や肺転移あるいは腹膜播種や腹部リンパ節転移、縦隔リンパ節転移をしている患者さまについて入院で対応を行っております。

#### ■脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
160100XX99X00X	頭蓋・頭蓋内損傷	10	13.7	11.901	60	85
010060X2990401	脳梗塞	-	21.5	16	33.333	80.667
160100XX97X00X	頭蓋・頭蓋内損傷	-	3.4	3.556	0	79.2
010040X099000X	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷 性硬膜下血腫以外）	-	20	26.484	25	81.25
010060X2990421	脳梗塞	-	27.75	26	50	74.25

脳梗塞の急性期治療では、薬による内科的投薬治療のほか、早期の場合は活性化酸素除去剤を用いる症例にも24時間治療が可能な体制で診療を行っています。

脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)では地域連携クリニカルバスを使用し、当院は急性期治療を担い、回復期を担う

専門的リハビリテーションが受けられる医療機関へ転院となります。病状や患者さま・ご家族さまの状況等により自宅や施設となる場合もございます。

当院は、他医療機関との連携により、切れ目のないより良い医療となるよう努めています。

#### ■小児科外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060160X101XXXX	鼠径ヘルニア	-	2	3.516	0	8.5
11022XXX01XXXX	男性生殖器疾患	-	2	2.429	0	7.5
060170XX02XXXX	閉塞、壊疽のない腹腔のヘル ニア	-	2	2.667	0	5
070010XX010XXXX	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄 を除く。）	-	2	2	0	9
140590XX97XXXX	停留精巣	-	2	2.48	0	6

患者数が10未満の数値には「-」としています。  
 当院では15歳未満の消化器外科の対象を小児外科として対応しております。  
 患者さま(お子さま)とご家族に寄り添い、安心していただける温かく丁寧な診療に心がけております。

■眼科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
020110XX97XXX 0	白内障、水晶体の疾患	14	3	8.2	0	77.357
020110XX97XXX 1	白内障、水晶体の疾患	-	3	4.502	0	79
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

患者数が10未満の数値には「-」としています。  
 当院では眼科の入院はほぼ白内障手術の患者さまです。  
 外来でも日帰りで行って白内障手術を行っております。ご高齢の方や基礎疾患があり管理が必要な患者さまには入院での治療を勧めております。

初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数

	初発					再発
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	
胃癌	4	1	1	3	6	2
大腸癌	2	1	4	11	4	5
乳癌	3	4	6	2	3	12
肺癌	0	0	0	3	3	2
肝癌	0	0	0	1	2	0

※ 1：UICC TNM分類，2：癌取り扱い規約  
 ステージ(Stage)とは、がんの深さや広がり、リンパ節転移の有無、他臓器への浸潤・転移の有無などによって決定されます。  
 0～IVに分類され、ステージIVが最も進行した病期分類となります。  
 退院までに検査結果が明らかでないものは「不明」件数に含まれます。  
 手術だけではなく抗がん剤治療など患者さまに合わせた治療法を選択し総合的に管理しております。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均 在院日数	平均年齢
軽症	1	14	53
中等症	57	18.667	74.754
重症	46	21.174	83.913
超重症	10	16	82.2
不明	0		

患者数が10未満の数値には「-」としています。  
 市中肺炎とは、病院外で日常生活をしていた人に発生した肺炎。重症度分類にはA-DROPが用いられております。  
 スコア0軽症、スコア1～2中程度、スコア3重症、4～5超重症。  
 患者数が最も多いのは中等症です。軽症→中等症→重症と年齢および平均在院日数が長いことがわかります。  
 高齢の患者さまの場合は症状がはっきりしない場合もあり、できるだけ早期に適正な抗菌薬の投与を心がけています。  
 重症度の低い患者さまであっても、先天性疾患があったり、癌の既往があったりして重症化を危惧され入院となるケースがあります。  
 軽症の患者さまも積極的に受け入れています。

脳梗塞の患者数等

発症日から	患者数	平均 在院日数	平均年齢	転院率
3日以内	40	21.705	81.398	16.667
その他	9	20.107	77.893	57.143

救急で搬送される患者様も多く、常に受け入れることが出来るように体制の確保に努めております。  
 入院後早期にリハビリテーションを行うことで、その後の患者さまのADL（日常生活動作）向上を目指しています。  
 地域連携クリニカルパスを使用し、回復期リハビリ病院、療養型病院、介護施設等と連携し総合的な治療管理を行っております。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■乳腺腫瘍科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施しない）	40	2.1	12.475	0	62.825
K4764	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴う））	29	2.138	6.483	0	54.448
K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わない））	15	1.4	5.4	6.667	60.467
K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））	11	1.909	9.727	0	52.455
K476-4	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	-	1	8.5	0	49

患者数が10未満の数値には「-」としています。

乳癌の病態、進展度、腫瘍径などにより、乳房の温存、腋窩リンパ節郭清の省略を図る各種の術式を行っています。

大きな腫瘍に対して腫瘍の縮小を目的に術前に化学療法を行っています。

乳房を温存する治療も行っており、同時乳房再建も年々増え二期再建も行っております。

患者さまの病態やニーズに合わせ、複数の選択肢の中から最も適した治療法を提案しております。

また、甲状腺関連の手術も行っております。

■消化器外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	43	2.047	2.651	0	63.837
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	14	3.071	7.214	0	50.643
K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	14	1	2.643	0	38.786
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	-	2.333	13.667	0	80.556
K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	-	1.875	6.5	0	56.625

患者数が10未満の数値には「-」としています。

腹腔鏡を用いた手術が上位を占めており、開腹で行う手術と比べ、傷が小さく患者さまの負担も少ないため早期退院が可能で、早期の社会復帰が見込まれます。

悪性・良性にかかわらず腫瘍性疾患に対して、腹腔鏡を用いた低侵襲手術に積極的に取り組んでいます。

鼠径ヘルニアや胆嚢摘出術等はクリニカルパスを用い、治療の過程を明確にして、安全で合理的な医療の提供を行えるように努めております。

悪性腫瘍の患者さまに対し、抗悪性腫瘍剤の局所的持続注入または疼痛の制御を目的として、皮下埋込型ポートを設置します。

■整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0821	人工関節置換術（股・膝）	72	1.764	22.111	8.333	71.597
K0811	人工骨頭挿入術（股）	58	4.448	21.879	77.193	80.983
K0461	骨折観血的手術（大腿・上腕）	54	3.852	18.167	74.074	82.352
K0462	骨折観血的手術（下腿）	36	1.833	3.306	5.556	64.778
K0463	骨折観血的手術（その他）	29	2.586	9.207	24.138	62.034

患者数は、1回の入院で複数(両側等)の手術を行った場合は、主の手術1つのみカウントされています。

1位：関節の変形が原因の変形性股関節症・膝関節症に対し、人工関節置換術を多く行っています。

2位：大腿骨頸部骨折に対し、人工骨頭挿入術(股)を行っております。

3～5位：骨折観血的手術後には骨折治癒を促進する超音波骨折治療法を積極的に行っております。

上記手術に対し、骨折や変形の状態により、自家骨移植や人工骨移植も行っております。

術後には、早期にリハビリテーションを実施し、1日も早い回復が望めるよう理学療法士をはじめ、医師・看護師と連携をとり、チーム医療を行っております。

長期のリハビリが必要とされる場合は、回復期リハビリ病院や療養型病院等へ転院されております。

#### ■内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm未満)	82	0.049	1.073	1.22	65.671
K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2cm以上)	10	0.2	1.1	0	66.7
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍粘膜下層)	-	1	7.75	0	74.125
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	-	4.25	9.373	12.5	77.875
K654	内視鏡的消化管止血術	-	5.5	23.5	0	85

患者数が10未満の数値には「-」としています。

内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術は大腸内視鏡施行時に、大腸ポリープや早期の大腸癌の基部に液体を局注しスネアをかけて切除する方法で、1泊2日の入院で施行しています。

胃・十二指腸の早期癌や前癌病変には、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)で安全・確実に切除しています。入院期間は、1週間程度となります。

内視鏡的手術では、胆道疾患における結石の除去・ステント留置なども多くの症例を行っております。

#### ■泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K8036	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(その他)	30	0.867	4.4	0	72.067
K7811	経尿道的尿路結石除去術(レーザー)	15	0	2	0	60.533
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	-	0.889	5.556	0	75.667
K8282	包茎手術(環状切除術)	-	0	1	0	11.5
K783	経尿道的尿管狭窄拡張術	-	0	1.667	0	65.333

患者数が10未満の数値には「-」としています。

経尿道的膀胱悪性腫瘍手術は、早期に発見された浸潤性でない膀胱がんに対して行います。

経尿道的尿路結石除去術は、腎結石や尿管結石症に対して内視鏡を挿入し、レーザーにより結石を破砕し、カテーテルを用いて体外に結石を摘出します。

経尿道的手術は尿道から内視鏡を挿入して手術する方法で、開腹による手術に比べ患者さまの身体への負担が少ない治療法です。

包茎手術は、小児から成人まで多くの手術を行っております。殆どの患者さまが2日以内に退院しております。

#### ■小児外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K6335	鼠径ヘルニア手術	-	0	1	0	8.5
K8282	包茎手術(環状切除術)	-	0	1	0	7.5
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術(下腿)	-	0	1	0	9
K6333	臍ヘルニア手術	-	0	1	0	5
K836	停留精巣固定術	-	0	1	0	6

患者数が10未満の数値には「-」としています。

当院では、15歳未満の消化器外科対象の症例を小児外科として対応しております。

最も多い手術は鼠径ヘルニア(陰嚢水腫・精索水腫)手術です。小児ヘルニアの手術はクリニカルパスを使用し2日以内に退院しております。

お子さまとご家族に寄り添い、安心していただける温かく丁寧な診療を心がけております。

■脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	37	18.027	18.46	56.756	81.892
K386	気管切開術	-	13.5	31.5	100	80.5
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

患者数が10未満の数値には「-」としています。

経口摂取が不十分な場合、あるいは誤嚥性肺炎の危惧される場合等、栄養剤等を直接胃に投与するため、腹壁から胃内に到達する経路を造設します。

■眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K2821	水晶体再建術（眼内レンズを挿入）（その他）	37	1	1	0	77.27
K2761	網膜光凝固術（通常）	1	4	14	0	66
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

患者数が10未満の数値には「-」としています。

白内障は主に加齢により眼内のレンズ（水晶体）が混濁する病気です。白内障手術(水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合))が最も多い結果となっております。クリニカルパスを使用し2泊3日入院で、片側ずつ手術を実施しております。

■その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	0	0
		異なる	6	0.265
180010	敗血症	同一	4	0.177
		異なる	8	0.353
180035	その他の真菌感染症	同一	0	0
		異なる	4	0.177
180040	手術・処置等の合併症	同一	3	0.132
		異なる	0	0

患者数が10未満の数値には「-」としています。

播種性血管内凝固症候群（DIC）および敗血症で入院された患者さまは少なく、原疾患から合併して発症するケースが殆どです。敗血症・真菌感染症は、血液が細菌に感染し、全身に炎症を起こす病態で、主に悪性腫瘍や腹膜炎、肺炎や尿路感染症など、免疫不全状態に合併します。手術・処置の合併症には、術後の出血、創感染、縫合不全などがあります。起こり得る合併症については、事前に可能な限りに患者様に説明した上で同意をいただき、発症が最小限になるように努めております。

■更新履歴

2021.09.30

2020年度病院指標を公開しました。